



スポーツ健康科学部
稲垣 裕美 教授
いながき ゆうみ / 静岡県出身。大学時代にライフセービング部に所属し、救命に出会う。

周りの人に“おせっかい”ができる人に

「救命法レクチャー」は、もともとライフセービング部の活動でしたが、より救える命を増やしたいという思いから、ゼミ活動へと拡大されました。レクチャー当日の人員配置や、子どもたちと距離を縮めるためのコミュニケーションの方法などは、ゼミ生たちと話し合っていて決めています。その中で斬新なアイデアが飛び出すこともしばしば。そういった柔軟な発想は、大切にしていきたいですね。

日本の救命普及率は世界の中でもとても低いと

言われています。誰かが倒れていたら、救急車は呼ぶけれど、救命処置はせずに見守る人がとても多い。頭で理解していても実技が身につけていないと、とっさに行動できません。

だから、救命法レクチャーでは座学よりも実践を大切にしています。いざという時に勇気を持って手を差し伸べる。「この人、大丈夫かな?」と思ったら声を掛けてみる。そんな“おせっかい”を世の中に広めていきたいです。



人の命をみんなで救える地域に
救命法レクチャー

救命法普及を目的に、地域の子どもたちへの指導を行う「救命法レクチャー」。リアルな体験で、救命措置の大切さを学ぶ。



胸骨圧迫にチャレンジ!



困っている人がいたら声を掛けてね!



もしもの時には人を助けるぞ!

救命措置講習の修了証を手渡し!

45分間のレクチャーが終わり、心肺蘇生の手順やコツを再確認した小学生たちに修了証を配布。リアルな体験を通して、小学生たちは救命措置の大切さを実感した。



AEDってこう使うんだね!



はい!!



勇気を持って行動することの大切さを伝えたい

実践を経験しないと、いざとなった時にからだは動かない。練習段階から声を出し動くことが大切だと伝えるために、学生たちは大きな声でキビキビと動いて小学生を誘導した。

子どもたちが行動できるようサポートします!

登坂 美咲さん
スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科 4年
とさか みさき / 茨城県出身。将来は高校の教員になることが夢。



わかりやすく伝えられるよう工夫しています!

井坂 行人さん
スポーツ健康科学部
スポーツ健康科学科 3年
いさか ゆきと / 茨城県出身。ライフセービング部でも救命を学んでいる。



「子どもたちがレクチャーに集中するにはどうしたらいいかも話し合い、これから救命法を勉強するよ!」という空気感をつくりまわす。救命はすぐに動き出すことが大事なので、指名されたらすばやく手をあげるなどのゲームを考え実施しています(登坂さん)

人を思いやる気持ちや育み、未来へつなげる

AEDを使ったデモンストレーションや質問タイムを経て、45分間のレクチャーはあっという間に終了。子どもたちに感想を聞くと、「楽しかった!」「教え方がわかりやすかった!」との答えが返ってきた。そんな姿に、ゼミ生たちは安心した笑顔を見せた。

登坂さんは高校の教員を目指していて、「教育実習先で救命処置の授業を行ったんですが、このレクチャー経験がとても役立ちました」と話す。

水泳に関わる仕事に就きたいという井坂さんも、「水泳と救命とは切っても切れない関係。この経験は僕の夢にダイレクトに役立つと思います」と話す。

さらに学生たちは、活動を通して人を思いやる気持ちが育まれるのを実感しているという。そうした学生たちの真剣で前向きな姿勢は、参加した子どもたちにも伝わり、いざとなったら動き出せる勇気を与えただろう。

「子どもたちがレクチャーに集中するにはどうしたらいいかも話し合い、これから救命法を勉強するよ!」という空気感をつくりまわす。救命はすぐに動き出すことが大事なので、指名されたらすばやく手をあげるなどのゲームを考え実施しています(登坂さん)

人を思いやる気持ちや育み、未来へつなげる

AEDを使ったデモンストレーションや質問タイムを経て、45分間のレクチャーはあっという間に終了。子どもたちに感想を聞くと、「楽しかった!」「教え方がわかりやすかった!」との答えが返ってきた。そんな姿に、ゼミ生たちは安心した笑顔を見せた。

登坂さんは高校の教員を目指していて、「教育実習先で救命処置の授業を行ったんですが、このレクチャー経験がとても役立ちました」と話す。

水泳に関わる仕事に就きたいという井坂さんも、「水泳と救命とは切っても切れない関係。この経験は僕の夢にダイレクトに役立つと思います」と話す。

さらに学生たちは、活動を通して人を思いやる気持ちが育まれるのを実感しているという。そうした学生たちの真剣で前向きな姿勢は、参加した子どもたちにも伝わり、いざとなったら動き出せる勇気を与えただろう。

「胸骨圧迫! 1・2・3・4...」
響き渡る掛け声に、緊張感に包まれる体育館。見つめる小学生たちの瞳は真剣みを帯び、どんどん引き込まれていく。「救命法レクチャー」は、地域全体に救命法を普及することを目指して、2012年からスタートした。

「急な病気や事故に遭った人を見かけた時に、子どもたちがすぐに行動できるようにお手伝いしたい、という想いで活動しています」と話すのは、4年生の登坂美咲さん。

活動は龍ヶ崎市内の小・中学校で実施され、子どもたちが一次救命処置の知識と技能を学べる場を提供している。3年生の井坂行人さんは、こう説明してくれた。

「子どもたちがレクチャーに集中するにはどうしたらいいかも話し合い、これから救命法を勉強するよ!」という空気感をつくりまわす。救命はすぐに動き出すことが大事なので、指名されたらすばやく手をあげるなどのゲームを考え実施しています(登坂さん)

人を思いやる気持ちや育み、未来へつなげる

AEDを使ったデモンストレーションや質問タイムを経て、45分間のレクチャーはあっという間に終了。子どもたちに感想を聞くと、「楽しかった!」「教え方がわかりやすかった!」との答えが返ってきた。そんな姿に、ゼミ生たちは安心した笑顔を見せた。

登坂さんは高校の教員を目指していて、「教育実習先で救命処置の授業を行ったんですが、このレクチャー経験がとても役立ちました」と話す。

水泳に関わる仕事に就きたいという井坂さんも、「水泳と救命とは切っても切れない関係。この経験は僕の夢にダイレクトに役立つと思います」と話す。

さらに学生たちは、活動を通して人を思いやる気持ちが育まれるのを実感しているという。そうした学生たちの真剣で前向きな姿勢は、参加した子どもたちにも伝わり、いざとなったら動き出せる勇気を与えただろう。

お手本です! コツは、強く、速く、絶え間なく!

救命動作を使ったゲームで子どもたちと距離を縮める

